



よみきかせボランティアのための

おすすめえほん

2019
夏号

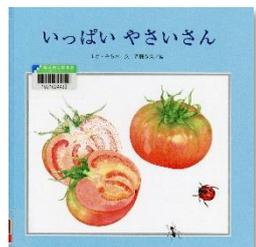
小学1・2年に
おすすめ

詩

『いっぱい やさいさん』

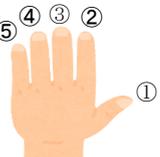
まど・みちお/文 斉藤恭久/絵 至光社 (約3分)

まど・みちおの詩の絵本。見開きごとに、きゅうり、玉ねぎ、トマト、なすなどがみずみずしい水彩画で描かれ、短い詩が添えられている。野菜が野菜として生かされていることを喜んでいる様子が伝わってくる。言葉の心地よさを美しい絵とともに味わいたい。



プログラムに取り入れたい 手あそび・わらべうた
『いなかのおじさん』

いなかのおじさん
たんぼみちとおって
かえるをふんで
げのげのげ



歌に合わせて、①→⑤、⑤→①の順に触っていく。歌が終わったとき、触っていた指を折る。残りの指で同じことを繰り返し、最後の指を折ったら終わり。

『ぼくのぱんわたしのぱん』

知識

神沢利子/ぶん 林明子/え 福音館書店 (約6分)

パン屋さんでパンをみた子どもたちが、パンを作ろうと思いたち、一からパン作りをする様子を描く絵本。砂糖を溶かしたお湯にイーストをいれ膨らませるところからはじまり、パン作りの工程を温かみのある絵とリズムカルな文章で描く。焼きあがったパンに子どもたちも満足する。



小学3・4年に
おすすめ

小学5・6年に
おすすめ

創作

『光の旅 かげの旅』

アン・ジョナス/作 内海まお/訳 評論社 (約4分)

白と黒だけのはっきりした絵で描く、一種の仕掛け絵本。

明け方、家を出て、町や農場、麦畑、山や海辺を通り町にたどりつく頃、太陽が沈む。ここで本を逆さまにすると、夜の情景になる。町をでて、花火を見物し、雨に降られたりして家に帰る。光と影が逆転する仕掛けに子どもたちも喜ぶ。



15分のプログラム例
『ふしぎなやどや』
はせがわせつこ文、
いのうえようすけ画、
福音館書店
と組み合わせ

県立図書館では、学校などでの読み聞かせの方法について、『よみきかせ相談会』を実施しています。

子ども室カウンターでも、ご質問などをお伺いしています。



発行：福井県立図書館子ども室
(2019.6発行)

〒918-8113 福井市下馬町 51-11
TEL. 0776-33-8860

福井県立図書館

検索